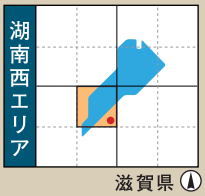
史跡
国指定

芦浦観音寺跡（あしうらかんのんじあと）

草津市芦浦町　平成16年度指定申請



観音寺は、白鳳期までその創建が遡るといわれていますが、応永年間（1394～1428年）に天台寺院として中興し、以後、織田信長、豊臣秀吉、徳川初期政権の中で重用され、特に、当時の交通の大動脈である琵琶湖の湖上交通の管掌者として重要な役割を果たしました。寺院ではありますが、その外観は城郭そのものです。

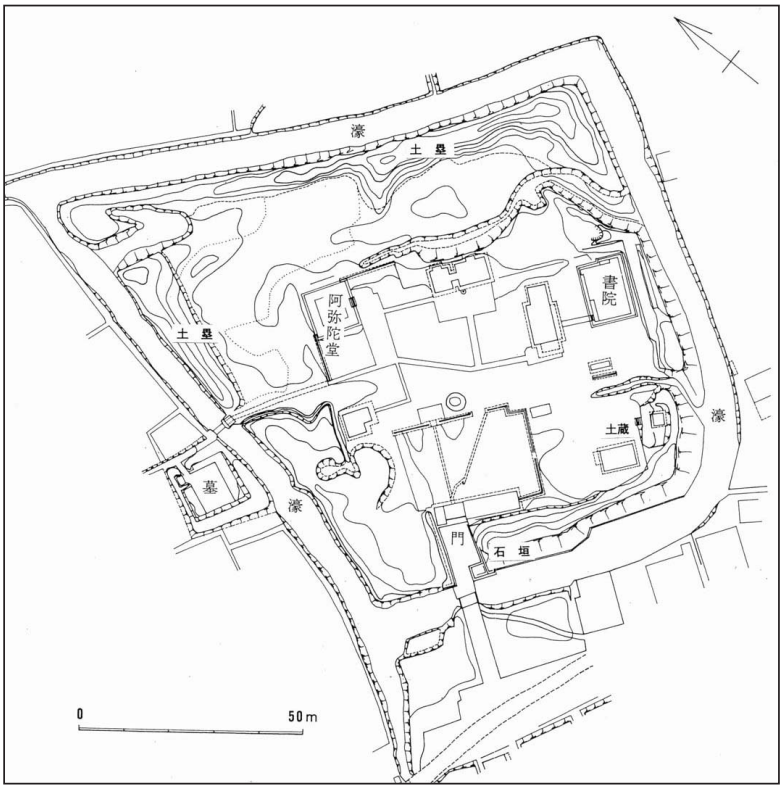
当時のできごと	
1404年	勘合貿易が始まる
1590年	豊臣秀吉が全国を統一する
1682年	井原西鶴 好色一代男を刊行

観音寺の歴史

芦浦観音寺は、聖徳太子の開基伝説を持つ、湖南でも有数の古刹で、「近江の正倉院」と称される程、多数の文化財を所蔵しています。芦浦観音寺が史上名高いのは、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康などの権力者の実務官僚として、近江支配に大きな役割を果たしたためです。

特に、近畿と日本海、中京を結ぶ大動脈である、琵琶湖の湖上交通を管理掌握したことが、観音寺の力を高めることとなりました。また、江戸時代初期には、湖南方面の天領代官としても、大きな力を発揮しました。

しかし、貞享2年（1685）観音寺は、その政治的な権力を全て、幕府から剥奪されてしまいます。現在見られる境内の景観は、江戸時代初期の状況を留めていると考えられます。



芦浦観音寺跡遺構全体図

遺構の状況

観音寺の境内の周囲には、水堀を巡らし、周囲と画するとともに、境内内部には幅6m前後、高さが2m前後の土塁を築いています。特に、正面入り口には石垣を築き、さらには長屋門を配する堅牢な造りを示し、まさに、近世城郭のたたずまいを見せています。境内での発掘調査の結果、観音寺の中興期(15世紀初め）の遺構の上に「観音寺境内絵図」に見られる遺構が造られていることが確認されました。観音寺の政務を行った「政所」の建物は失われているものの（明治時代まで残存）現状の景観は、観音寺が大きな力を持っていた、江戸時代初期の景観を留めていると考えられます。

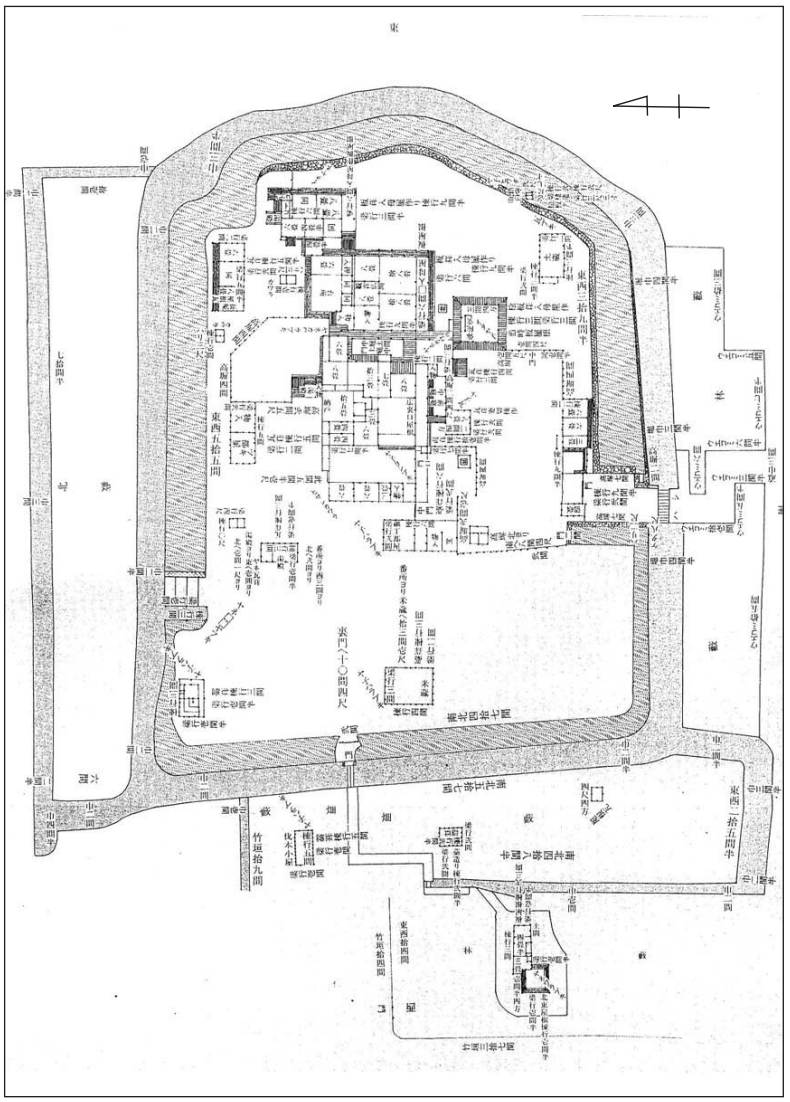


芦浦観音寺跡内部状況（南東より重要文化財阿弥陀堂を望む）

湖上水運と観音寺

琵琶湖の湖上交通は人、物、情報が行き交う、近代に至るまでの大動脈であり、この支配は、大きな利益と力をもたらしました。中世の湖上交通には、堅田（大津市）、菅浦（西浅井町）などの集落が、それぞれに大きな影響力を発揮していたことが、知られています。これに対し、信長、秀吉、家康の天下人は、天下統一のための条件として琵琶湖の湖上交通を掌握し、その支配下に置く必要がありました。その支配のために選ばれたのが、観音寺です。

いつの段階で観音寺が湖上交通の全体を掌握したのかは諸説があります。天正8年（1580）「織田信長朱印安堵状」によるとの考え方もありますが、これは限定的な支配権の行使であり、天正19年（1591）の「豊臣秀吉定書」に船奉行名が初めて見え、翌年に諸浦加子改（しょうらかこあらため）を行っていることから、おおよそこの時期に湖上交通の管掌者となったものと考えられます。



芦浦観音寺境内絵図読み下し図



表門より入り口部を見た状況



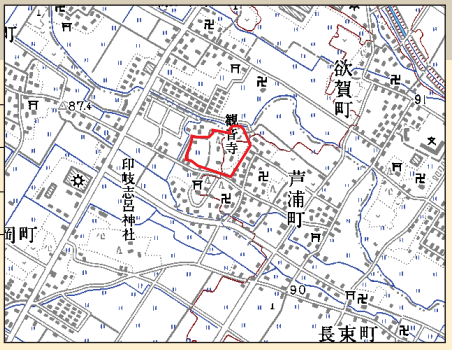
芦浦観音寺跡正面（南側より）

関連する文化財

花摘寺跡（草津市）	白鳳期の寺院遺跡。礎石が残る
浅井町菅浦（西浅井町）	菅浦文書で有名な集落。中世には琵琶湖に関する特権を背景に大きな力を持っていた
大津市堅田（大津市）	菅浦と共に琵琶湖に関する特権を行使し、大きな力を持った

もっと深く知りたい

草津市教育委員会	☎077-561-2429	草津市草津3-13-30
琵琶湖文化館	☎077-522-8179	大津市打出浜1-1
大阪市歴史博物館	☎06-6946-5728	大阪市中央区大手前4-1-32
安土城考古博物館	☎0748-46-2424	蒲生郡安土町下豊浦6678
芦浦観音寺跡へのアクセス	JR琵琶湖線　草津駅下車	



【参考文献】〔近江の遺跡〕（財）滋賀県文化財保護協会　〔芦浦観音寺館総合調査報告書〕草津市教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月